大石ゼミナールの活動

コミュニティ小ガーデンの制作および環境学習プログラムの運営展開

大石ゼミナール／地域遺産活用研究室
小川直人、川端剣造、坂本竜起、三宮裕司、福永愛美、山田洋暉

１．はじめに　―　活動の基礎

大石ゼミでは、造園の目標・コンセプト・範疇、学びの姿勢を表 - 1 のように整理し、活動の基礎体系として心掛けてきた。例えば OB は、2010 年度から表 - 2 に示すような企画や施工等を含む活動に取り組んできた。2020 年度は、その伝統を基本的に継承し、特に学びの姿勢としての「造園学習・自己研鑽・地域貢献」の融合を強く意識して、複数のコミュニティ小ガーデンの制作・運営、環境学習プログラムの運営展開に取り組んできた。

表 －1　造園・学びについての考え方

造園	目標	人々の幸福と環境保全
		（FOR　HUMAN　HAPPINESS　&　CONSERVATION）
	コンセプト	・DESIGN　WITH　NATURE
		・MOTTAINAI　精神
		・人+木＝休
		・温故知新
	範疇	MY　GARDENからエコミュージアム・地域づくりまで
学び	姿勢	「造園学習・自己研鑽・地域貢献」の融合
		造園の目標を自身の社会的職責と考え行動する。

表 －2　コンセプトと OB の取り組み例

コンセプト	取り組み例
DESIGN WITH NATURE	1）　学生施工としては、世界的にも史上初で最大規模と思われる二丈キャンパスでの本格的サイホン噴水の施工（「地形・水・自然原理」を活かす）／1996、1997、2000、2002 年度 2）　二丈キャンパス露頭岩盤を活かしての枯山水／2010 年度
MOTTAINAI精神	1）　廃棄物的な物財の造園資材的活用の検討／1998 年度～ 2）　二丈キャンパス剪定緑枝の花材やどんと焼き材等としての利活用／2010 年度～
人+木=休	1）木との触れ合いなどを重視した環境学習プログラムの開発や運営展開　（「環境・教育・文化・健康・福祉」の連携融合創造）／2012 年度～
温故知新	1）　農家の水田引水術を学んでの枯山水への低床河川からの遠隔パイプ送水による庭園注水の実現／2010 年度 2）　人畜力活用の古農具について温故知新的学習と古農具ガーデン制作運営を通しての啓発／2014 年度～ 3）　伝統的農業揚水技術の親水遊具への応用デザイン施工／1996～1998 年度

２．活動の内容

（１）唐人町商店街まちなか簡易季節ガーデン

本ガーデンは、10 年程前から大石ゼミによって継続運営されてきている月毎の小ガーデンである。大石ゼミ考案の施工簡易な「市松パターン造園ユニットデザイン工法」で、小ガーデンを創り、リフォームし、その季節の唱歌・伝統的年中行事、慣習、節気、植物、句歌、関連絵手紙類などの文化的情報資源をその庭に一体的に取り込み、情報発信型庭園を営むものである。2020 年度は省力化に努め、商店主らによる自主的な実施を可能とし啓発につなぐことを意識してきた。十分な取り組みとは言えなかったが、「中村哲先生追悼ガーデン」も制作した。

表 －3　「情報情緒発信」簡易季節ガーデン営庭歴

月	ガーデンテーマ	A	B
3	おひな様ガーデン／春が来たガーデン	○	○
4	花見ガーデン	○	○
5	鯉のぼりガーデン	○	○
6	アジサイガーデン	○	○
7	七夕ガーデン（新暦）	○	○
8	七夕ガーデン（旧暦）	○	○
9	重陽・お彼岸・月見ガーデン	○	○
１０	神無月ガーデン／ホークス V 祈願ガーデン	○	○
１１	おめでとう・ありがとうホークスガーデン	○	○
	追悼・中村哲先生ガーデン	○	
１２	クリスマス駅ガーデン	○	○
1	お正月平安ガーデン	○	○
2	節分ガーデン	○	○

A:　まちなか簡易季節ガーデン（唐人町商店街内）

B:　「かわら版」オアシスポケットガーデン（福浜 UR 団地内）　○:　営庭

写 －1　クリスマス駅ガーデン（唐人町商店街２０２０．１２）

（２）当仁・ホークス通りガーデン

本ガーデンの基盤は、市民団体と協議の上、2020 年度にゼミ OB が造成した。2021 年度は敷地が大幅に拡張されることとなり、本年度ゼミで新たに設計し、庭園基盤を新設したものである。狙いの 1 つは、“Cherish our Hawks　Together”のもと、「ホークス応援と市民花植え」が融合した「地域の絆としての花園」の運営である。

1）植栽計画／植栽ゾーニング

植栽ゾーンは、ベルト状・マス状に分け４区分とした。

(a) 市松パターンゾーン「市民植え込み・市民管理専用ゾーンⅠ」（主に１年生草花類）

(b) アイキャッチゾーン（ホークスカラー黄色関連の植物／ふ入り植物の小ミュージアム）

(c) ホークス応援縁起木ゾーン（吉木について学べる縁起木小ミュージアム）

(d)「市民植え込み・市民管理」専用ゾーンⅡ（主に一年生草花類）

2）施設計画／御影石端材・古レンガ塊等の活用

MOTTAINAI 資源としての標記の石材類を、例えば、a)「用と景」を兼ねた飛び石的踏み石に、(b) 黒御影石端材をチョークメッセージ黒板としてしつらえた。

写 －2　「当仁・ホークス通り」ガーデン

（3）UR 福浜「農・季節・歴史・縁起」の福祉ガーデン

ＵＲ福浜団地の中央広場脇には、バス停、郵便局、公民館、ストアー等が隣接し、多くの人が住来する。大石ゼミでは５年程前より、この広場に造園的価値を付加増幅することを考えてきているが、本年度は全体を構成する小空間の設定目標をより明確化して、それら各空間及び、トータルとしての全体的造園空間の充実を試んだ。

(1)「農」のガーデン

(2) 黒田官兵衛「水五則」ガーデン

(3)「かわら版」オアシスポケットガーデン

(4)「なんじゃもんじゃ&縁起木」ガーデン

(5) マイ弁当箱ガーデン

写 －3　UR 福浜「農・季節・歴史・縁起」の福祉ガーデン
―部分景としての「かわら版オアシスポケットガーデン―

写 －4　思い出深い唐箕を体験するお年寄り

1）「農」のガーデン

「農」をテーマとする理由は、住民はお年寄りが多く体験も含む「農」との関わりや「農」への潜在的志向が強く、「農」的風景や雰囲気、「農」的モノやコトに「懐かしさ」や「癒し」、共通話題性を感じる人が多く住民の「元気の素」づくりに貢献するのではと思うからである。

① 植栽計画

俯瞰的にもやさしい植え島を造り、昔の農家に普段に植えられていた植物を植栽する。（サトイモ、コンニャク、ミョウガ、ショウガ、シソ、カツオナ、カボチャ、ハヤトウリ、ゴーヤ、サトウキビ、オクラ、ハラン、ツワブキ、キク、シダ類、ドクダミ、ジュズダマ、コウゾ等）

② 施設計画

古農具（回転除草機、回転播種器、牛馬耕転器、唐箕、竹篭等）や古民具類（白磁器酒樽・水浴桶等）を設営し、「農」や「懐かしさ」、「癒し」を感じてもらって、「温故知新」学習的な脳トレや体験談に花咲かせての団らん、多世代交流につないでもらうことを企図した。日本の伝統的風景を代表する稲干し風景（稲架）も設営した。

写 －5　「農」のガーデンにおける古農具の設営

2）黒田官兵衛「水の五則」ガーデン

本ガーデンは、5 年程前にゼミ OB によって、「水の五則」の顕彰啓発、人々と歴史の繋ぎ等を企図して作庭された枯山水であるが、「水の五則」の文の退色が進んできており、その修復や石組の補修に取り組んだ。

なお、枯山水を普及させようと、砂箱と川石からなる「マイ小宇宙『枯山水づくり』」のセットを園地に設営して、老若男女に価値があると考えられるその機会を提供してきた。更に、本年度に大ヒットしたアニメ「鬼滅の刃」に縁の深い黒色の市松模様の舗床空間を、当ガーデンの一角に黒瓦版で制作した。（2021．1）材料はMOTTAINAI 資源としての瓦工場の処分予定の等外品を譲り受け、活用したものである。アニメをきっかけに子供たちが市松模様や造園空間と言える市松模様小空間に親しむことを期待している。

写 －6　高層住宅団地群に囲まれた広場の周辺環境

写 －7　黒田官兵衛「水の五則」ガーデン（手前部枯山水）
および卓上枯山水体験場（奥方部箱群）

3）かわら版オアシスポケットガーデン

「かわら版」（情報ボード：0.9×1.8m）は、月例的に季節情報等を掲示するものであるが、そのメディア体を修景するグリーンオアシスを、表 - 3 に示した唐人町商店街まちなか簡易季節ガーデンとほぼ同様に運営してきている。人々の団らんの場を目的として、ムクロジ種を用いた波の音作り体験、ムクロジ果汁石鹸水作り体験、手びねりコマ回しなどの体験学習機会の提供の場としてきている。

4）「なんじゃもんじゃ&縁起木」ガーデン

当ＵＲ広場には、８本のヒトツバタゴ（ナンジャモンジャ）が、8 つの各植えます（2×2m）に植栽されている。樹高は約４m、枝張りも約４m に生長していて、毎年花を咲かせてきている。この植えますを、人口密度の高い当地住民の価値あるガーデニングの場にしようと、ゼミ OB は、UR 関係者と話し合って住民にとってガーデニングしやすいように「用と景」的な張り石や石組み等を施工してきている。（しかしながら、現時点では、住民ガーデニングの場として活用されていない。）

この植えますに縁起木の縁起指標を八分類して分区園的に植栽し、「千両、万両、百両、有り通し」の金運等も含めた縁起木の世界を楽しんでもらおうという狙いである。ちなみに、地床では各縁起木を取り込んだ草花ガーデニングの営みも可能である。

5）マイ弁当箱ガーデン

「農」のガーデンの端部に、木製四角形のプランター（30×30cm）を配列し、レンタルオーナーを募集し、園芸の機会を提供するとともに、一帯の緑花の充実を図ろうとしてきている。「手慣れた弁当づくりと同じ感覚で小さな庭づくりをどうぞ。」との呼びかけである。２５箱を４人のオーナーと我々ゼミ生で管理してきている。なお、かけ水によるガーデニング参加が人によって楽しめるよう、水やじょうろ等を備えた「かけ水・打ち水スポット」をも設営した。

表 －4　縁起木ガーデンの分区園テーマ（縁起木指標）と樹種

縁起指標	樹種
難転	ナンテン、オタフクナンテン
魔除け	ヒイラギ、シナヒイラギ、ヒイラギナンテン、トベラ
希望・成就・豊	アスナロ、キチジョウソウ、ニシキギ、マンサク
勝利	ゲッケイジュ、イチイ、ギンバイカ
金運	センリョウ、マンリョウ、ヒャクリョウ、ジュウリョウ、アリドオシ
栄	サカキ、ヒサカキ、ユズリハ、ダイダイ、フッキソウ
強・招福	クロマツ、タケ、ウメ、ヤツデ
明・健	キンカン、キンマサキ、オウゴンマサキ、ローズマリー

（4）野外ミュージアム with ハーブ園

1）背景と経緯

対象地である国立九州視覚障害センター「香りの園」（福岡市西区今津）は、1980 年頃に造営されたもので、リフォームが必要視されてきている。大石ゼミでは、2019 年度よりそのための提案の活動や一部施工に参画してきている。

2）基本計画

半円状の園路沿いの台地部（園路 G.L.より 60 ㎝高）に ⓐ博物資料展示区画（1.5×1.5m、御影石平板の市松紋様全面張り）及び、ⓑハーブのテーマ植栽分区園区画（1.7×1.5m、周縁部を縁泥片岩「青石」乱張り）を、隣接させて、8 セット計 16 区画を設営する。

①野外展示博物資料のテーマ及び種目の体系

a）古農具系（回転除草機、牛馬けん引耕転機等）
b）古民具系（餅つき石臼、碾き臼、火鉢、湯たんぽ）
c）岩石系　（六角形立体状の玄武岩等）

d）植物系　（ヤツデ、サルスベリ等）

市松紋様全面張り石であり、地面部にはオブジェ展示と両立しやすいグランドカバー的なハーブ（タイム系等）を植栽し、地被に向くハーブの見本園とする。

③　ハーブ植物の分区園による体系的植栽（用途別）

ハーブ植物の用途別を中心に８つのテーマに分け、四季の景観形成面も勘案して各分区園にグループ植栽する。

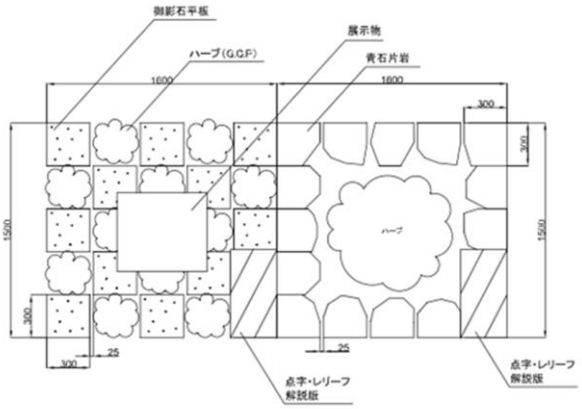

図 －1　野外展示園地区画「ユニット」基本平面計画図

写 －8　野外ミュージアム with ハーブ園／分区園

（５）図書館エントランス小ガーデン

インテリアグリーンと情報発信性（小ミュージアム性）を兼ね備え、運営も簡易で文化性、自在性に富む小ガーデンの提案啓発を目指し、図書館ならではの価値ある情報（コト・モノ）を、グリーンと共生させて月例的に発信する予定であったが、十分には果たし得なかった。（1.2×1.5mの区画）

（６）環境学習プログラムの啓発

大石ゼミでは、「自然学習・環境学習・園芸福祉」が一体的に融合するに連なる体験学習プログラム例を、2010 年に「『人＋木＝休』からの事始め」と題してリーフレットにまとめ刊行し、みどりや福祉の催事、小学校等への出前授業などで実践してきた。2020 年度は、西日本短大オープンキャンパスでの実物実演による紹介（2020. 9.6）や、福岡市主催「一人一花サミット」行事の一環としての、専門家との協働によるプログラム動画作成の機会に恵まれた。尚、かわら版オアシスポケットガーデン内にムクロジ果汁石鹸水作り体験などの環境学習プログラム体験コーナーを営んできた。

（７）樹木楽習の手引き書づくり

2019 年度に大石ゼミ OB は、八女市「育みと学びの森」（仮称）づくりにおいて、植栽基本計画や市民によるボランティア植栽（2020.3）の企画などに関わった。

表 －5　本年度に紹介啓発に力を入れた環境学習プログラム例

	プログラム	コンタクト素材
a.	水車製粉パウダー「線香＆お香」手作り体験	杉葉パウダー
b.	竹編み親子入門	真竹ひご
c.	女竹で作るエコ鉛筆ホルダー	メダケ竹筒
d.	「世界最速」ムクロジ純植物性石鹸づくり	ムクロジ果実
e.	タラヨウ字書き葉「葉書き・便箋・お手紙」体験	タラヨウ葉
f.	木の実・草の実「波の音」協奏体験	各種木の実・草の実
g.	木の実・草の実「鑑賞＆音響」福祉ボトル	各種木の実・草の実
h.	多世代交流「卓上＆地上」コマ回し	手びねりコマ、投げコマ
I	「マイ小宇宙づくり：あなたも庭師」卓上枯山水	砂、川石等の自然石
J	多窓型壁掛け式竹花筒づくり	真竹竹筒
k.	その他	

2020 年度は、その森の目的を達成できるよう、つまりはその樹林を歩きながら順々に体系的に楽しく樹木が学べるよう、植栽基本計画と呼応した「樹木楽習の手引き」の編纂に取り組んだ。

（８）福浜公民館 OB 作庭園の管理と改修

2000 年頃にゼミ OB が制作した公民館庭園の管理と改修を行なった。狭さの克服と修景充実のため、舗床部にも庭園部と同じ青石で石組みを設け「景をつなぐ」工夫を施した。

３．おわりに

十分な取り組みとは言えないが活動を通し、地域住民を幸せにする地域緑地の創造運営の要件として、次の事の示唆を受けた。①住民のニーズの適確な把握と対応 ②創り手（発信者）と住民（受け手）の情報交流交換の充実　③ガーデンからの情報情趣発信の質量の充実　④住民参加・住民参画・協働の取り込み（案例として野外設営の木製古農具の管理を兼ねた住民参加による柿渋塗り体験の福祉的実現等）尚、2021 年度は環境プログラムの出前教室等はコロナ禍により、中止を余儀なくされた。野外緑地での団らんも含め人々の交流を阻もうとするコロナ禍の終息・賢明な解決が望まれる。

４．参考文献

Ⅰ．西日本短期大学　大石ゼミナール地域遺産研究室、令和元年度　大石ゼミナール活動報告、2020,2